

研究・調査報告書

報告書番号	担当
185	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
<p>Light to moderate alcohol consumption is associated with lower frequency of hypertransaminasemia. 少量から中等量のアルコール消費は高トランスアミナーゼ血症の発症頻度を低下させることに関連している</p>	
執筆者	
Suzuki A, Angulo P, St Sauver J, Muto A, Okada T, Lindor K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Gastroenterol. 102(9): 1912-1919 (2007)	
キーワード	
アルコール、飲酒、肝臓、高トランスアミナーゼ血症	
要旨	
<p>目的： 少量から中等量のアルコール消費の肝臓に与える効果については様々な議論がある。少量から中等量のアルコール消費と高トランスアミナーゼ血症の発症頻度との関連について検討するため、日本の職場健康診断の資料を用いて、横断的、それに続いて縦断的コホート研究を行った。</p> <p>方法： C型肝炎、B型肝炎、その他の慢性肝疾患に罹患していない1,177名の男性(20-59歳)について解析した。アルコール消費量(非飲酒、微量; 70g/週未満、少量; 70以下~140g/週未満、中等量; 140以下~280g/週未満、大量; 280g/週以上)と高トランスアミナーゼ血症との関連性を解析するため、多重ロジスティック回帰分析を行った。それに続いて、脂肪肝や高トランスアミナーゼ血症の既往のない326人について、高トランスアミナーゼ血症の発症率とCox比例ハザード回帰分析のため、5年間の追跡調査を行った。</p> <p>結果： 大量飲酒は、非飲酒や微量飲酒を対照として、高トランスアミナーゼ血症を発症するオッズ比の上昇と関連していた。年齢別グループとアルコール消費量の間には有意な相関が認められた。若年グループでは、中等量飲酒は高トランスアミナーゼ血症を発症するオッズ比の低下と関連していたが、一方、老年グループでは少量飲酒がオッズ比の低下と関連し、大量飲酒はオッズ比の上昇と関連していた。継続的な観察期間中では、中等量飲酒で高トランスアミナーゼ血症の発症率の低下と関連していた。</p> <p>結論： 少量から中等量のアルコール消費は、男性で他の肝疾患のない場合、高トランスアミナーゼ血症の発症に防御的に働くものと考えられる。なお、少量から中等量のアルコール消費を一般的に推奨するためにはさらに研究を追加する必要がある。</p>	